

オープンデータ化への応用に向けた 前橋市の大学生の生活環境に関する調査



住環境

情報環境

交通環境

概要

- 背景
- 自治体によるオープンデータ活用事例
- 住宅を活用した地域振興事例
- 大学生の指標調査
- ヒアリング調査
- 結論

背景

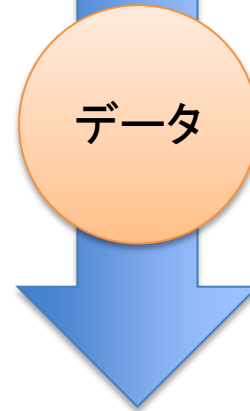
- 自治体 × オープンデータ → より良い生活
- 活用にあたる問題や課題
- 前橋市が抱える課題

問題、課題を基にオープンデータを活用し前橋市を活性化させる方法を検討

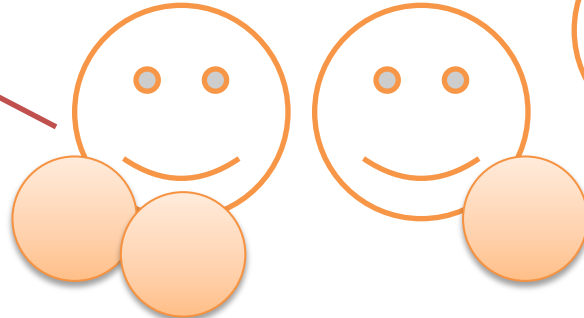
オープンデータの活用



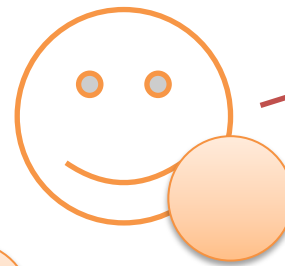
自治体の所持している
データをweb上で公開



データを2つ合わせ
て新たな価値
の発見



アプリ制作



自由に使用可能

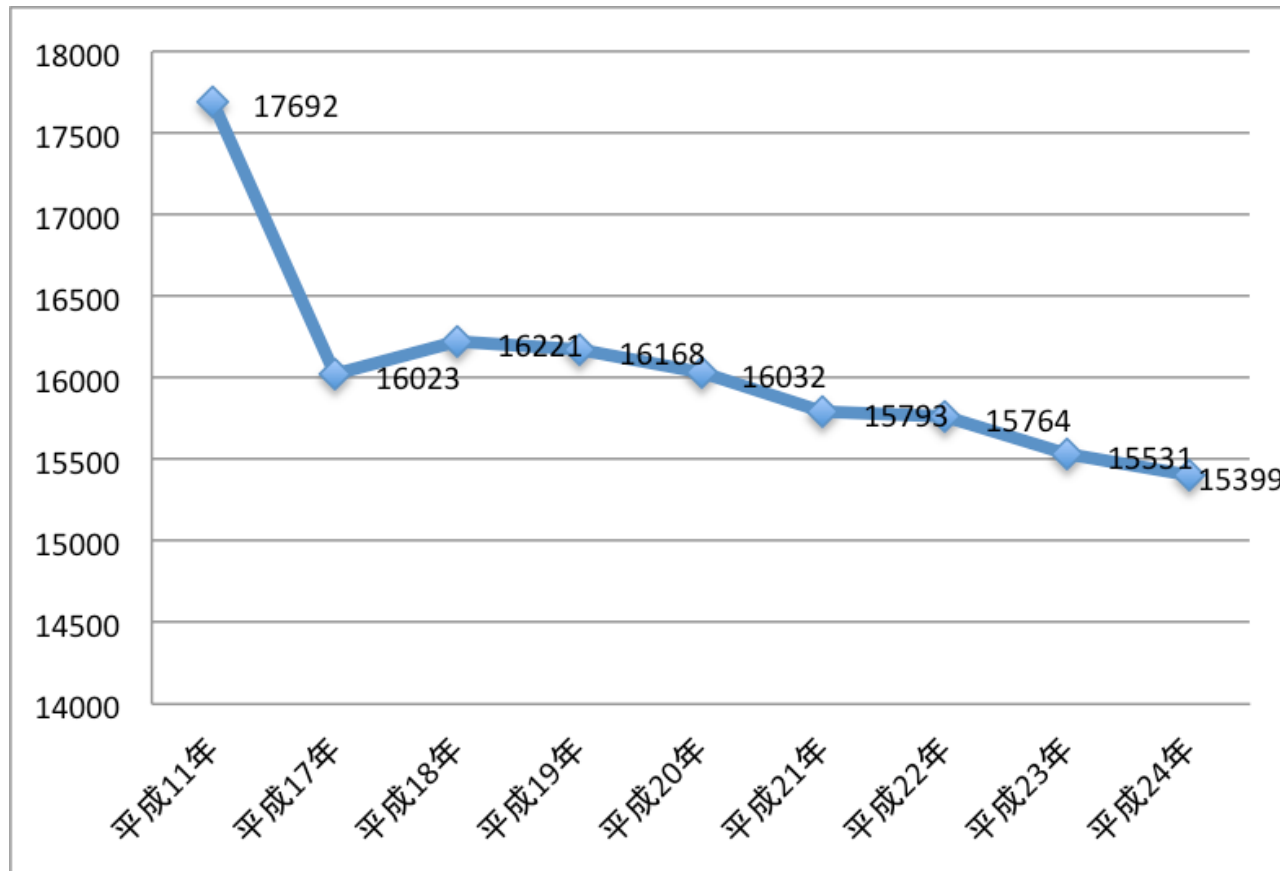
活用における問題点

- 誰に向けて？
- どう使う？
- フォーマット
- 何を提供すればいい？



二次利用が活発でない

前橋市の課題



中心市街地内人口の移行 出典:住民基本台帳

自治体によるオープンデータ活用事例

- オープンデータに取り組んでいる自治体
 - 66の自治体
 - 内容は保育園、公園など公共施設の位置情報
 - 自治体独自のグルメコンテスト上位店舗情報
 - 統一された基準はない
- 公開データ形式
 - CSV形式 PDF形式

オープンデータ活用事例

- 鯖江市
 - データシティ鯖江市
 - XML形式RDF形式
 - ポータルサイトでデータを公開
 - 二次利用を促進するコンテンツ
- 横浜市
 - 二次利用を促進する仕組み作り
 - アイディアソン、ハッカソン活動が盛ん

住宅を活用した地域振興事例

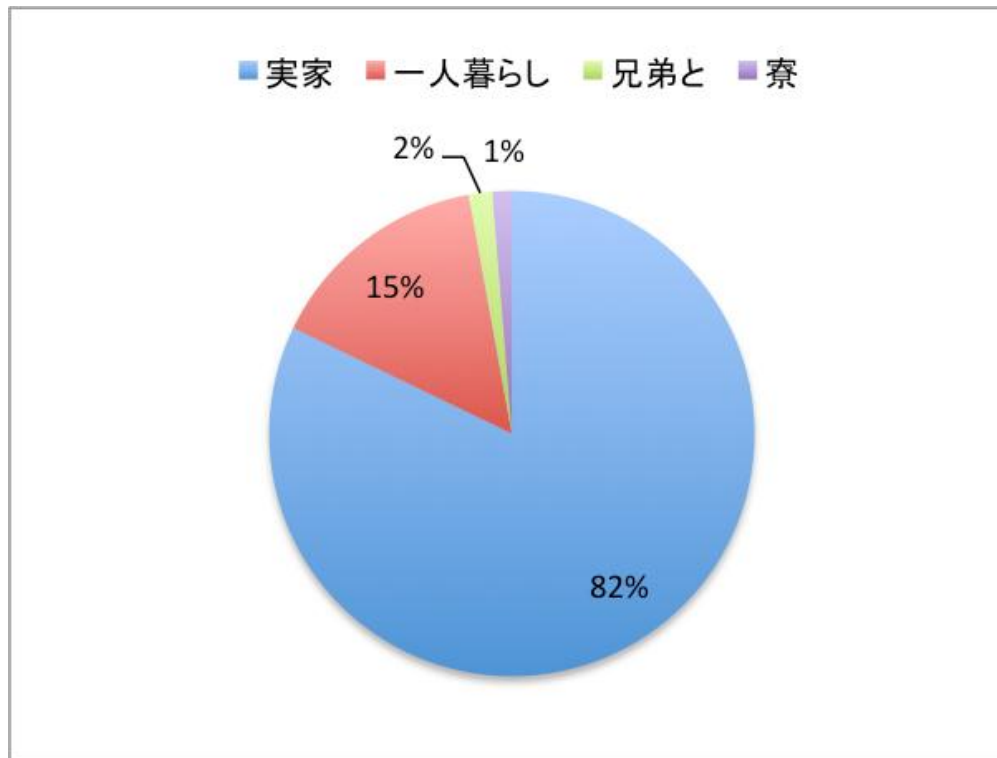
- 東京都板橋区高島平
 - 空き部屋を有効活用
 - 団地空き部屋を学生寮として貸し出す
- 東京都千代田区神田
 - 好立地好条件の住居が安く借りられる

地域活動に従事することが条件

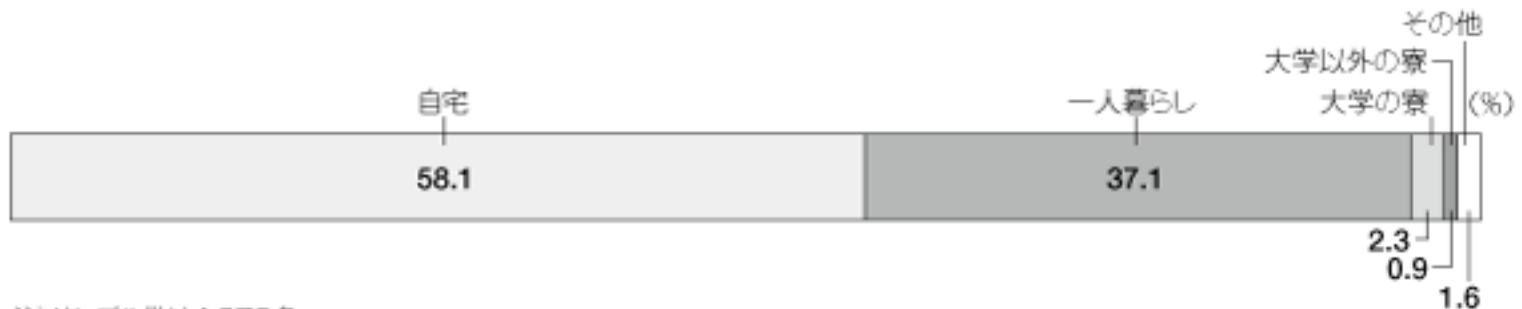
大学生の指標調査

- 回答者年代別割合
- 学生の住居形態の割合
- 一人暮らしをしない理由
- 希望する住居形態
- 希望する住居の部屋数
- 希望する部屋数
- シェアハウスの印象
- 住んでもいいシェアハウスの条件

学生の住居形態の割合

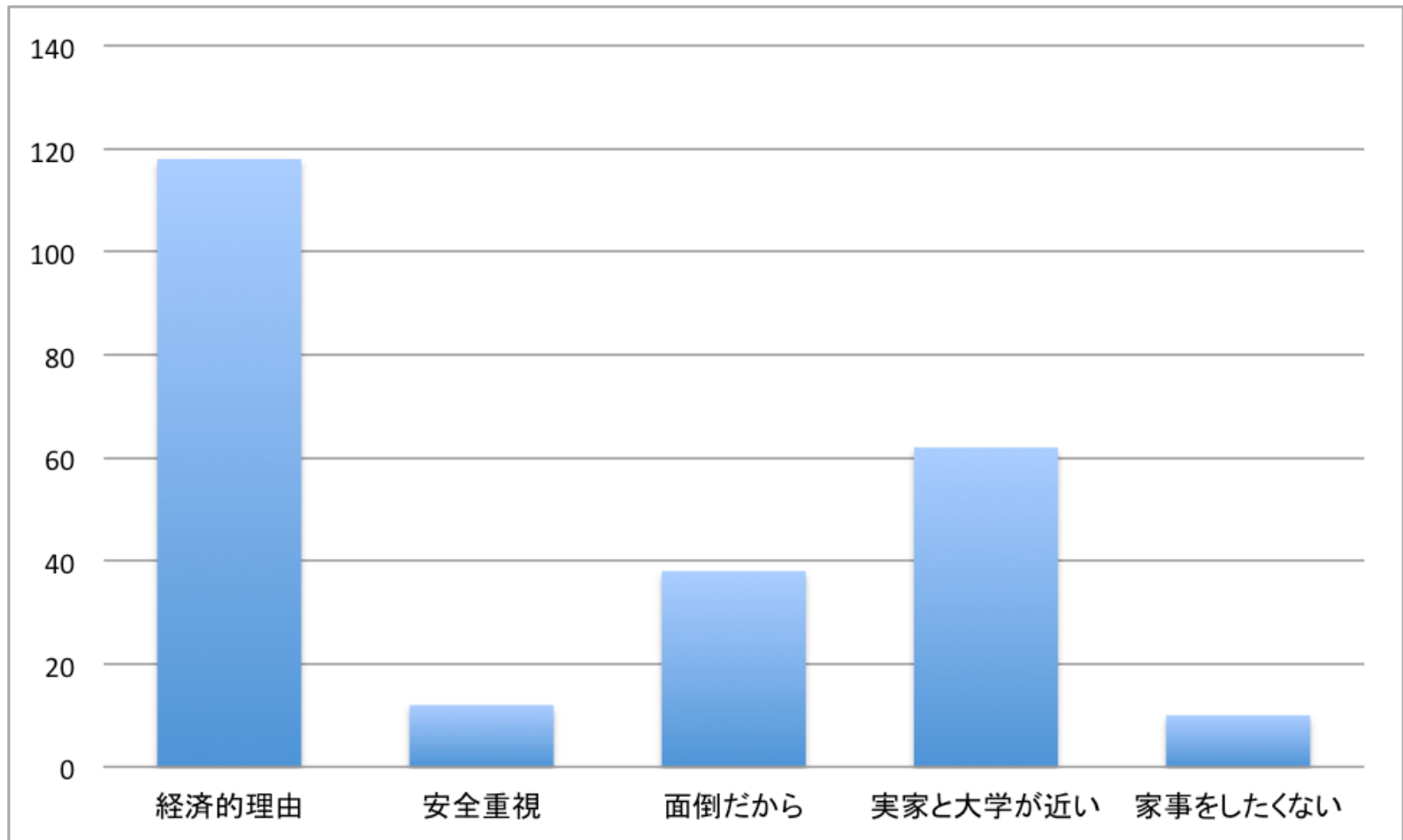


↓全国



注) サンプル数は4,070名。

一人暮らしをしない理由



ヒアリング調査

- まちなか再生室
- 建築住宅課

- 前橋中心商店街協同組合の方
- インテリアショップ代表取締役の方

- まちなか再生室

- 問題– 街中に活気が足りない

- 解決策– 街中で生活をして地域と関わり合えるシステムを作る

- 建築住宅課

- 問題-- 住宅ストックの増加

- 解決策-- 空き家住み替え事業の促進

- 前橋中心商店街協同組合の方
- インテリアショップ代表取締役の方
 - 地域や住居者同士で関わり合いができる
 - 地域活動に参加し意義のある生活ができる

 - シェアハウスを設立、建設するにあたって専門的な知識がなかったから知り合いを頼りにしていた

結論

- 前橋市の抱える問題と課題
- 群馬県の学生の住居に関する傾向

- 中心商店街に出店したい人
- 通行量のデータ、近隣住居者の世代情報、
空き店舗数や位置データ



街が賑わえば前橋中心市街地の住民が増加